

「協会を支える分科会活動」を企画して

編集委員長 大矢 仁史

粉体工業展と分科会活動は、(社)日本粉体工業技術協会活動の両輪という言葉をよく耳にする。現在協会が運営している分科会は昨年度微粒子ナノテクノロジー分科会が単位操作型に移行したため単位操作型15、プロジェクト型4の合計19である。その19分科会がどのように活動しており、来年度はどのような興味深い活動を計画しているかを総括することは「粉体と工業」の時代に続き、粉体技術でも4月号で取り上げたいと思っている。多くの分科会では、年末から年始にかけて当該年度の活動を振り返り、反省点を洗い出し、その結果を基に次年度の計画を立て1月後半での分科会連絡会議にその内容をあげ、協会内で討議し、その内容を確定させるため4月号が各分科会の活動内容を明示していただくには最もタイムリーな時期だからである。また、新年度の始まりと言うこともあって、各協会会員、粉体技術読者が興味をもっている分科会が今年度にはどのような活動を計画しているか、その内容によってはうまく予算や時間を工面してその活動に参加しようかという計画を立てるのに最も相応しい時期であると思われるからである。

今年度の各分科会活動の特徴は、世界的な不況の中でどのように分科会活動を継続、発展させていくかを記述している分科会が多いことであろう。特に社会的ニーズに敏感なプロジェクト型分科会の半分が不況の中での新しいビジネスチャンスを探る分科会の運営に腐心されているのは分科会全体の位置づけや協会活動の柱の1つとしての分科会の活動として相応しい姿であると思われる。

是非本誌を手にとっていただいた読者諸氏には、本号全体に目を通していただき、協会がこれまで力を入れてきた分科会活動の内容をご確認いただくとともに、このような時期だからこそ本業以外の新しい分野に目を向けていただく絶好の機会として活用いただければ幸いである。また、1つでも興味がある分科会がもし見つかったときには、その分科会活動に参加いただき、新しい分野の勉強、人脈形成をしていただければ、スムーズな新規分野開拓ができるのではないだろうか。

最後に本業でお忙しいにもかかわらず、分科会活動を支えておられる代表幹事、副代表幹事各位並びにコーディネータ、副コーディネータの各先生方のご苦勞に感謝申し上げたい。



おおや ひとし
大矢 仁史
北九州市立大学 国際環境工学部
エネルギー循環化学科 教授

〒808-0135 福岡県北九州市若松区ひびきの1-1
TEL : 093-695-3738 FAX : 093-695-3786
E-mail : h-ohya@env.kitakyu-u.ac.jp